

# EWI と PC/Mac の徹底使いこなしガイド

この章では MPC Beats に収録されているエフェクトを使ってさらに音作りを行う方法について解説します。

EWI 本体の内蔵音源で演奏する場合、ディレイ、リバーブ、コーラスの3種類（EWI USB はリバーブのみ）を使用することができます。また、これまでにご紹介した Tube Synth には5種類のエフェクトが搭載されています。基本的な音作りを行う上ではこれらのエフェクターでも十分ですが MPC Beats に付属している 80 以上のオーディオ FX プラグインを使用することで、自由度が増しさらに進んだ音作りをすることができます。

## エフェクトでさらに音作りをする

- 14-1 MPC Beats 付属オーディオ FX プラグイン
- 14-2 空間系（ディレイ）
- 14-3 ハーモニクス系（ディストーション）
- 14-4 モジュレーション系（ワウ）



### 14-1 MPC Beats 付属オーディオ FX プラグイン

付属のオーディオ FX プラグインには 80 以上のエフェクターが収録されており、大きく分類すると以下の通りになります。

- ・空間系 [Delay / Reverb など]
- ・ダイナミクス系 [Comp / Gate など]
- ・モジュレーション系 [Wah / Chorus など]

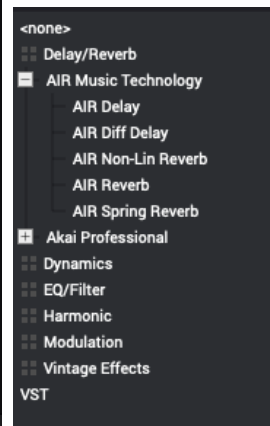
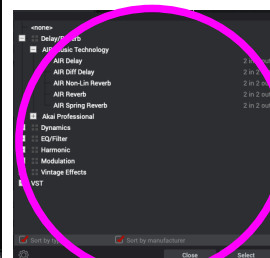
エフェクターの接続方法にはインサートとセンドリターンの2種類がありますが、センドリターンは複数のトラックを使った楽曲制作などに使用され、ここでは INSERT FX として使用します。INSERT FX として使用した場合、Tube Synth を立ち上げているプラグインプログラムやマスター出力にそれぞれ4つずつエフェクトをかけることが可能です。

INSERT 部分の空の slots をクリックすると使用可能なエフェクターが一覧表示されるので使用したいエフェクターをダブルクリックしてロードします。エフェクターのパラメーターはエフェクト名をクリックすると表示されます。

次ページでは各カテゴリーの代表的なエフェクターを選び、主なパラメータと音作りのポイントを紹介します。



▲インスペクター



▲エフェクター一覧

## 14-2 空間系 (ディレイ)

ディレイは主にディレイタイムとフィードバックでエフェクトの効果のかかり方を調整します。

<代表的なパラメーター>

ディレイタイム：演奏音のあとディレイ音が発音されるまでの時間

フィードバック：ディレイ音の発音回数

DRY/WET：原音とエフェクト音のバランス



▲ Ping Pong Delay

<音作りのポイント>

ソロで演奏する場合にはディレイタイムを長めに設定して響きを強調した音色にすることができます。逆に極端に短く設定をすることで、ダブリング(コーラス)のような効果も得ることができます。また、ディレイタイムを曲のテンポに合わせて設定し、フィードバックを少し強めにすると輪唱のような効果を得られるので、複雑なフレーズなどを演奏することができます。

## 14-3 ハーモニクス系 (ディストーション)

ディストーションは音を歪ませるエフェクターで、ドライブとトーンで音色に変化をつけます。

<代表的なパラメーター>

ドライブ：歪みの量

トーン：歪んだ後の音の明るさ

DRY/WET：原音とエフェクト音のバランス



▲ AMP DISTORTION

<音作りのポイント>

エレキギターのように歪んだ音色を作るためにはDRIVEを多めに加え、DRY/WETは100に設定します。また、音に厚みを出す場合には、薄くディストーションをかけると効果的なので、DRIVEは少なめに加え、DRY/WETも小さい値に設定をします。

## 14-3 モジュレーション系 (ワウ)

ワウは、フィルターの開閉をすることでワウワウと音に変化するエフェクターです。

<代表的なパラメーター>

レゾナンス：ワウワウ効果の強さ

DRY/WET：原音とエフェクト音のバランス

なお、これらのオーディオ FX プラグインは、外部からのオーディオにもかけることができるので、EWIの内蔵音源をオーディオインターフェース経由でMPC Beatsに入力し、エフェクトをかけることも可能です。



▲ AUTOWAH

<音作りのポイント>

レゾナンスを高く設定するとクセがより強くなり、独特の音になります。オートワウは入力された音量に対して反応するので、レゾナンス以外にもSENSE(感度)ATTACK(反応速度)RELEASE(減衰速度)を変更することで効果が大きく変わります。極端にワウワウ効果を強調したい場合には、Sensをあげ、ATTACKとRELEASEをさげると良いでしょう。